

ICT 活用による業務の効率化

中核校	小樽市立稲穂小学校	指定校	小樽市立花園小学校、 小樽市立西陵中学校、小樽市立菁園中学校
-----	-----------	-----	-----------------------------------

実践前の状況

- ・当日の行事予定や連絡事項、欠席児童等の情報を、行事黒板や校務支援システムの連絡機能、メモなど、様々な方法で情報を共有しなければならない慌ただしく乱雑な状況であった。
- ・教頭や主幹教諭、事務部に情報共有のデータや共有のための業務が集中していた。特に朝の欠席児童確認と学級担任への連絡は校内を走り回る慌ただしい状況で、全職員の情報共有が難しい状況であった。

実践の概要

職員室大型モニターと端末による情報共有の取組

- ・職員室の行事黒板を廃止し、大型モニターを設置した。行事予定や連絡事項、欠席児童の情報を一元化することで学級担任は教室の端末で確認でき、双方向での情報共有による効率化を図った。
- 休暇等処理連携システムによる事務処理業務の効率化
 - ・休暇処理の申請・確認・承認の手続きをデジタル化し、事務処理時間の縮減につなげた。
- 共有ドライブの活用によるデータの共有
 - ・職員会議の提案文書や授業資料等を共有ドライブで共有し、端末を用いて校内のどこでも確認できるようにした。
- 校務 DX へ向けた研修の改革
 - ・研修の研究協議や意見の交流・集約に端末を積極的に活用している。各自の意見がリアルタイムで共有され、参加意識の高まりや協議の深まりが生まれている。また、短時間で効率的な研修となっている。



【職員室の大型モニター】



【端末を活用した研修への意見交流画面】

実践の充実に向けた取組の工夫

〔校長の取組〕

- ・校長として、働き方改革を進めるコアチームに、「効率的な情報共有による働きやすい職場づくり」「教頭業務のスリム化へ向けた見直し」を進める方針を伝え、事務部を中心に大型モニター設置などの ICT 環境を整備し端末と連携した情報一元化へ向けた取組を進めた。
- ・研修部に、「時間縮減へ効率的な取組と個々の参画意識が高まる校内研修」へ改革していく方向性を伝えた。ICT を活用した研修の取組が増え、協働性と参加意識が高い研修活動につながった。
- ・休暇処理連携システムは、事務部に市内の全学校に知らせる説明会を市教委と連携し開催させた。

成果（ ）と今後の課題（ ）

校務 DX により、働きやすさを実感する教職員が増え、業務の効率化により、タイムマネジメントの意識を高めることができた。

休暇処理連携システムにより、事務処理業務や休暇調査の報告業務が大幅に時間縮減できた。〔職員の時間外在校等時間が R4 年度より全ての月で時間縮減され、7 月以降は 1.5 割以上縮減となった。〕〔学校評価（教職員）の「仕事内容を見極め、効率的な時間配分を意識して業務に取り組んでいる」の項目について、肯定的な評価が増加した。（R4：88% R5：100%）〕

現在、校務支援システムは、端末と連携できていない。出欠確認や連絡等の各種アプリ、端末や校務用 PC との様々な情報の一元化を進め、業務の効率化がさらに進めていく必要がある。